

成果指標				
成果指標	交通安全街頭指導回数			
指標設定の考え方	市民に対する交通安全思想の啓蒙活動及び通学・通園路における学児童に対する交通安全のための誘導合図等の街頭活動を基本活動としているため、交通安全街頭指導回数を成果指標とする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目標	30	30	30	30
実績	28	29	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	従来多かった各種イベント等での交通整理業務は、市の指導や主催者側の理解により、警備会社等への委託が進んでいると判断している。そのため、交通指導員の本来業務である地域での街頭指導やイベント等における交通安全指導など、交通安全の保持に貢献していると考え、活動内容や場所については、その時々で取り組みが効果的なものとなるよう、前例踏襲ではなく常に改善意識を持たなければならない。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	自己の課題認識にもあるように、交通指導員の業務がマンネリ化しないよう交通指導員会が主体的に自己の業務の検証と改善を行うことが大切で、長期的視野に立って指導員の啓発と業務改革を促していく必要性を認める。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題